

令和3年度熊本地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、北西部中山間地帯、南・西部水田地帯、南・東部水田地帯、東部畑地帯、北部水田・畑地帯からなり、野菜、米をはじめ畜産、花き、果樹などの豊富な基幹作目を有しており、その中において主食用米は全水田面積の約6割を占める。

いずれも、立地的優位性、地域性を活かした特色ある経営が行われているが、近年の厳しい諸情勢に加え、都市化の影響を強く受け、農地、農家戸数、基幹労働力の総体的な減少、兼業化、混住化、高齢化の進行、耕作放棄地の増加など都市近郊農業特有の多くの問題を抱えている。

このため、経営の自立安定と国際社会に対応できる高生産性農業の実現に向け、各種の事業に積極的に取り組むことが必要である。特に新たな時代に応えるため、先端技術の導入、ハイテク農業の育成、農産加工の振興等都市農業の特性を活かした豊かで活力ある農業の振興を図ることが重要である。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

1) 適地適作の推進

- ・施設園芸によるトマト・茄子・メロン等の栽培が行われており、今後の作付面積の維持・拡大を図る。
- ・麦・大豆について、ブロックローテーションによる計画的な生産に取り組んでおり今後も作付面積の維持・拡大を図る。

2) 収益性・付加活向上への取組み

- ・高収益作物への計画的な転換を図るため、地域へ水田農業高収益化推進助成の周知を行い、産地における水田農業の高収益化を推進する。

3) 生産流通コストの低減

- ・生産性向上のために「強い農業・担い手づくり総合支援交付金」や「産地生産基盤パワーアップ事業」等を活用し、施設整備を進めていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

- ・令和2年度より熊本県が取りまとめる水田農業高収益化計画に基づき、高収益作物に転換し畑地化する場合には、経営所得安定対策以外の事業においても優遇措置が設定される事となったため、施設園芸が行われているような今後も水稲作に活用される見込みがない水田を中心に点検を行う。また、畑地化の取組について重点支援期間であることを周知し、地域の実情に応じて水田の畑地化を推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

農業者の経営の安定などの観点から、効率的かつ安定的な経営主体が市場を通して、多様な消費者ニーズを基点とし、需要に応じた生産に取り組み、売れる米づくりを推進していくことが極めて重要である。

すなわち、従来の「作ったものを売る」方式から、今後は「需要動向に基づき売れるものを作る」方式に転換していく。

(2) 備蓄米

3年産については、不落となったが、地域の実需者ニーズに合わせた推進を行う。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米については、主食用米同様、多様化する実需者ニーズに合わせ、需要に応じた生産に取り組むとともに、生産性向上に向けた取組を支援する。

イ 米粉用米

主食用米の需要減が見込まれる中、非主食用米の中で需要が見込めるものは、現時点では米粉用米であり、主食用米の需要減少への対応として、米粉用米の取組を中心に水稲作付面積を維持していく必要があるため、米粉用米を転作作物の中心作物の一つとして位置づける。

米粉用米の生産拡大にあたっては、今後産地交付金を活用した多収品種の導入推進を図っていく。

ウ 新市場開拓用米

産地交付金を活用し、地域の実需者のニーズに合わせた推進を行う。

エ WCS 用稲

耕畜連携等、地域の実需者との契約に基づき、推進を行う。

オ 加工用米

主食用米同様、需要者からのニーズに合わせた対応を行い需要の拡大を図る。

(4) 麦、大豆、飼料作物

営農組織等によるブロックローテーションなど団地化での大規模な経営生産を推進しながら、弾丸暗きょ等排水対策徹底による栽培管理を遵守し、多収・高品質化を目指す。

(5) そば、なたね

産地交付金を活用し、地域の実需者のニーズに合わせた推進を行う。

(6) 高収益作物

本地域の特色である施設園芸野菜、花き・花木類及びその他の作物等についても更なる生産拡大を図ることにより、農業経営の安定化や自給率の向上につながり、また、米の生産調整への積極的な取組に対して有効であるため、重要な転作作物のひとつとして位置づけ、産地交付金を活用しながら振興を図っていく。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	令和4年度の 作付目標面積 (ha)	令和5年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	2,664ha・14,811t	2,700ha・15,039t	2,700ha・15,039t	2,700ha・15,039t
備蓄米	16	16	16	16
飼料用米	1	1	1	1
米粉用米	13	14	14	14
新市場開拓用米	0	1	1	2
WCS用稲	212	215	215	220
加工用米	0	1	1	1
麦	338	370	370	370
大豆	163	126	126	126
飼料作物	145	147	147	150
・子実用とうもろこし	0	1	1	1
そば	7	7	7	7
なたね	1	1	1	1
高収益作物	578	591	596	601
・野菜	551	560	565	600
・花き・花木	21	23	23	23
・果樹	2	3	3	3
・その他の高収益作物	4	5	5	5
畑地化	0	1	1	1

※ 主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は 557kg/10a

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)
1	麦、大豆、そば	大規模経営加算 (基幹)	作付面積 (ha)		228	245
			大規模経営 による単収 (kg/10a)	麦	333	340
				大豆	167	170
				そば	57	60
2	飼料作物	飼料作物大規模経営 加算 (基幹)	作付面積 (ha)		15.9	16
			大規模経営による収量 (t/10a)		3.3	4
3	麦、大豆、飼料作物、 そば、なたね	二毛作助成 (二毛作)	二毛作作付面積 (ha)		374	380
4	飼料作物、 WCS用稲	資源循環の取組 (耕畜連携：基幹、 二毛作)	作付面積 (ha)		103	110
			実施率 (%)		29	42
5	地域振興作物	地域振興作物助成 (基幹)	作付面積 (ha)		575	601
6	施設園芸作物	施設園芸助成 (基幹)	施設作付面積 (ha)		395	420
7	米粉用米、 飼料用米	新規需要米多収品種 支援 (基幹)	作付面積 (ha)		13.9	15
			収量 (kg/10a)		557	580
8	園芸作物、加工用 米、飼料用とうも ろこし	高収益作物等拡大加 算 (基幹)	園芸作物作付面積 (ha)		580	625
			加工用米作付面積 (ha)		0	2.5
			飼料用とうもろこし 作付面積 (ha)		16.9	18